

令和2年度 農業科（資源動物科）

| 教科 | 農業 | 科目 | 畜産 | 単位数 | 2 単位 | 年次 | 1 年次 |
|-------|------------|----|----|-----|------|----|------|
| 使用教科書 | 「畜産」（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

資源動物科では皆さんが今まで接してきた愛玩動物ではなく、産業動物についてより深く学びます。その中でも科目「畜産」では、1. 畜産物は重要な食料の供給源である。2. 地域経済にとって重要な柱である。3. 環境の守り手である。4. 食と農をつなぐ大事な命の教育現場であるということを学んでいきます。1 学年ではその中でも「養豚」「酪農」の特性・飼育方法などを深く学び、科学的な考え方や知識を身に付けます。総合実習で実際に学んだことを生かして積極的に取り組みましょう。

2 学習の到達目標

- ・家畜の飼育と畜産経営について学習し、家畜の飼育計画、飼育管理、飼育評価に関する基本的な知識と技術を習得する。
- ・品種の選定や施設の利用など飼育計画に必要な知識および飼料給与など飼育管理に必要な知識を習得する。
- ・家畜の生理生態的な特性を理解し、合理的な飼育管理や飼育環境を理解する。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

| 観 点 | a:関心・意欲・態度 | b:思考・判断・表現 | c:技能 | d:知識・理解 |
|--|---|---|---|--|
| 点の趣旨 | 家畜の飼育技術の仕組みや家畜生産の役割など家畜の飼育と経営に興味関心を持ち、家畜と飼育環境の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解する意欲と態度を身につけ、畜種に応じ適切な飼育環境ができる意欲的な態度を身につけている。 | 家畜の発達と生理・生態の特徴と飼育環境および飼育技術の関わりを多面的に考察し、飼育に及ぼす環境の影響を適切に判断するとともに、畜産物の供給や今後の畜産の発展と地球環境の関わりについて適切に判断する能力を身に着けている。 | 家畜の特性を理解し、飼育環境と家畜の相互関係から基本的な飼育技術を適切に活用することができる。各家畜に適した飼育管理技術、家畜および畜産物の利用方法を身につけている。 | 家畜の特性や、飼育環境、産業動物としての役割についての知識を身につけ、飼育環境と家畜の相互関係から飼育技術を総合的・体系的に理解し、家畜の飼育方法や飼育環境を整え、畜産の今後の発展と人間関係との関わり、地球環境との関係について理解している。 |
| 評価方法 | 学習状況の観察 ノート レポート | 学習状況の観察 ノート レポート 定期考査 | 学習状況の観察 ノート レポート | 学習状況の観察 ノート レポート 定期考査 |
| <p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。</p> <p>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p> | | | | |

4 学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|--------------------|--------------------------|---|--------------------|-------------------------|---|-------------------------|---|-----------------------------|
| | | | a | b | c | d | | |
| 1 学期 | 養豚 酪農 | ○ブタの形態や習性の特性を理解させる。 ○ブタの生理・生態的な特性を理解させる。 ○ウシの形態や習性の特性を理解させる。 ○ウシの生理・生態的な特性を理解させる。 | ○ ○ | ○ ○ ○ | | ○ ○ ○ | a: 家畜の特性・繁殖に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 各家畜の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。 ・地域農業や学校農場の飼育実態に応じた家畜の飼育計画や管理について考えることができる。 c: 「総合実習」と連携し ・家畜における飼育管理および飼料給与・交配時期の判断に関する技術を習得している。 d: 家畜の基本的な特性について、正しく理解し、知識を身につけている。 ・家畜の飼育体験を通して、各生育段階の飼育に関する知識を身につけている。 | 授業観察 ノート レポート 定期考査 |
| 2 学期 3 学期 | 養豚 酪農 | ○ブタの特性に照らして、合理的な飼育管理技術を習得し、飼育環境を理解させる。 ○ブタの飼育管理と生産性と、生産性や生産物の品質向上との関係を理解させる。 ○ウシの形態や習性の特性を理解させる。 ○ウシの生理・生態的な特性を理解させる。 ○ウシの飼育管理と、生産性や生産物の品質向上との関係を理解させる。 | ○ ○ | ○ ○ ○ | | ○ ○ ○ | a: 家畜の特性・繁殖に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 b: 各家畜の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。 ・地域農業や学校農場の飼育実態に応じた家畜の飼育計画や管理について考えることができる。 c: 「総合実習」と連携し ・家畜における飼育管理および飼料給与・交配時期の判断に関する技術を習得している。 d: 家畜の基本的な特性について、正しく理解し、知識を身につけている。 ・家畜の飼育体験を通して、各生育段階の飼育に関する知識を身につけている。 | 授業観察 ノート レポート 定期考査 |

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。